

# 平成 27 年度 第 1 回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

## 1. 開催概要

1. 開催日時 2015 年（平成 27 年）8 月 28 日（金） 午後 6 時～ 8 時 10 分

2. 開催場所 湘南NDビル6階 6 - 1 会議室

## 3. 出席者

(1) 委員 = 23 人（うち代理 1 人）

小林 邦芳, 木原 明子, 大島 崇弘, 吉田 展章, 齊藤 祐二,  
島村 孝子, 児玉 文卿, 中嶋利浩(代), 西川 朋子, 菅原 健介,  
宮部美佐子, 木村 依子, 北島 令司, 市川 勤, 田場川善雄,  
青木 静恵, 中村 裕司, 内嶋 順一, 西岡奈緒子, 亀山 悟,  
倉持 泰雄, 向 泉, 佐川 悟

(2) 事務局 = 21 人

鈴木（市長）

企画政策課

宮原（主幹）

市民自治推進課

林（参事）, 古澤（課長補佐）

福祉総務課

片山（参事）, 赤尾（主幹）, 安孫子（主幹）, 日原（課長補佐）,  
越川（上級主査）, 齊藤（上級主査）, 曾我部（主任）, 坂井

介護保険課

室伏（参事）

高齢者支援課

小川（参事）

障がい福祉課

高梨（参事）, 一瀬（主査）

生活援護課

矢田（参事）

保健医療総務課

加藤（参事）

子育て企画課

和田（参事）

教育総務課

佐藤（主幹）

教育指導課

小木曾（参事）

(3) 傍聴者 = 0 人

## 4. 議題等

1 開会

2 委嘱状の交付

3 自己紹介

4 藤沢型地域包括ケアシステム推進会議の役割と進め方

5 藤沢型地域包括ケアシステムについて

6 意見交換

7 代表及び副代表の選出

8 その他

9 閉会のあいさつ

## ・会議の概要

### 【2 委嘱状の交付】

鈴木市長から各委員に委嘱状を交付し、開会のあいさつを行いました。

なお、藤沢市社会福祉協議会及び藤沢市から選出された委員については、委嘱状の交付を省略しました。

### 【3 自己紹介】

各委員から自己紹介がなされた後、席次により事務局の紹介を行いました。

なお、これ以降の進行については、藤沢型地域包括ケアシステム推進会議設置要綱に基づき、代表が行うこととなっているが、1回目の会議のため、事務局で行うことしました。

### 【4 藤沢型地域包括ケアシステム推進会議の役割と進め方】

事務局から、資料1及び参考1に基づき説明  
質疑等、特になし

### 【5 藤沢型地域包括ケアシステムについて】

事務局から、資料2・3及び参考2に基づき説明

### 【6 意見交換】

委員： 藤沢型地域包括ケアシステムを推進するにあたって、将来に向けた多角的な検討を含め、市の地域福祉計画や市社協の地域福祉活動計画との整合性はどのように考えていますか。

また、庁内で横の連携をとる体制がとられているのでしょうか。

事務局： 地域福祉計画・地域福祉活動計画は、資料3の下の点線で囲んでいる「地域福祉」に関する方向性や具体的な施策を示したものであり、その基本となるのが「土台＝地域づくり」となっています。さらに、地域福祉は「葉」の部分にあたる分野ごとの施策の土台にもなることから、地域での取り組みを活かしながら「葉」を育てるという考え方で連携し、藤沢型地域包括ケアシステムを構築していきたいと考えています。

また、庁内の連携体制については、地域づくりに関する専門部会を基本に、各専門部会で情報共有や意見交換を図るとともに、専門部会だけではなく、具体的な課題について、関係課が集まり、個別に話し合いを進めています。

委員： 地域が活動するためには、市内の横の連携というのは非常に重要ですので、今後も、必ず連携を図っていただければと思います。

委員： 資料2の4ページの図に「2025年問題対策委員会」とありますが、我々も共通認識を持つ必要があると思いますので、質問させていただきます。

私は、2025年問題というのは日本全体の問題であり、社会保障費が年々伸びる一方で、生産人口の減少等により税収は上がらないというお金の問題が根底にあると思います。

その中で、2025年問題対策委員会では具体的にどのような検討をされているのか、また、藤沢型地域包括ケアシステムとの連携をどのように行うのかという点について、教えていただければと思います。

事務局： 2025年問題対策委員会は、昨年度に設置しており、高齢化、少子化、地域コミュニティの希薄化、生産年齢人口減少に伴う労働力の低下、公共施設をはじめとするインフラの老朽化を重点的な政策課題として、対応策を検討しているところです。

連携については、藤沢型地域包括ケアシステムと都市基盤の再整備の2つを課題解決に向けたプラットフォームとして位置付け、これからのまちづくりの方向性等について、検討していく予定です。

委員： 高齢者問題を最初に検討するのはやむを得ないと思いますが、地域包括ケアの対象となるのは高齢者だけではなく、基本理念では障がい者や生活困窮者等も含まれており、実際に、既に地域で困っている方はたくさんいます。従って、将来の話でなく、推進会議の委員が知恵を絞れるよう、今起きている問題について検討し、取り組む方が、より良い藤沢型地域包括ケアシステムができるのではないのでしょうか。

行政だけではなく、地域住民の力を借りて進めるのですから、障がい者や生活困窮者等の少数の方に目を向けて、地域で困っている方に万遍なく対応するという大胆な提言があっても良いと思いました。

事務局： 藤沢型地域包括ケアシステムは、高齢者に限らず、子どもや障がい者も含め、横断的に対応を図っており、特に「地域づくりに関する専門部会」で検討している「地域の相談支援体制の充実・強化」が大きなポイントになると考えています。総合相談という視点から、縦割りとなっている制度を、いかに横串を指し、地域の中で横断的に相談支援ができる体制を構築していくのか、検討しているところです。

そういう意味では、専門部会の設定の仕方について、委員のご指摘のような課題もあると認識しており、必要に応じて見直し、課題やテーマに応じて、柔軟に対応していきたいと考えております。

委員： この会議において、私たち委員に課せられたミッションは何でしょうか。計画を策定することでしょうか。それとも地域包括ケアシステムのネットワークをつくるために知恵を出すことでしょうか。

また、庁内検討委員会や専門部会での検討内容について、この会議への報告はあるのでしょうか。併せて、こちらの意見を、そういった会議に反映していただけるのでしょうか。

さらに、庁内検討委員会や専門部会の構成課において、必要と思われる課が入っていないと思いますので、その点についても検討をお願いしたいと思います。

事務局： 推進会議における委員の皆さまの役割については、何をどこまでやっていただくのが一番良いのかも含めて、今日のご意見を踏まえて考えていきたいと思います。

また、庁内で検討している内容については、今回の資料では具体的に記載していませんが、例えば、先ほどの相談支援体制について、具体的に、市内北部方面の相談支援体制・機能の強化や、市社会福祉協議会の協力を得て地域にCSW(コミュニティソーシャルワーカー)を配置することなどを検討しています。その他にも、属性や文化にとらわれずニーズを拾えるような取り組み等も考えていますので、改めて資料をお示ししていきたいと思います。さらに、いただいた意見についても、庁内検討委員会や専門部会にフィードバックしていく予定にしております。

最後に、庁内検討委員会や専門部会に出席する関係課については、課題やテーマに応じて、臨機応変に対応していきたいと考えております。

委員： 全国的な問題として、地域コミュニティのつながりが随分薄くなっており、地域で活動する自治会や子ども会、老人クラブなどの組織率や加入率が下がっていると思います。それに伴い、自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会等、地域で活動する団体の横断的な連携が十分取れないと感じております。

また、地域と同様に、行政でも、自治会は市民自治推進課、地区社会福祉協議会は福祉総務課といったように、組織の横断的な連携という点において、十分ではないと感じます。

その点も含め、今後、横の連携に関する検討をお願いしたいと思います。

委員： 藤沢型地域包括ケアシステムの推進について、先ほどのご意見にもありましたが、私も、「土台」をつくって「葉」を育てるのではなく、まず、藤沢市で当面取り組まなければいけない課題を決め、それから「土台」をどうするかを検討したほうが、早く良い「木(=藤沢市)」になると考えています。そのためには、現在の藤沢市において、何が最重要課題かを検

討し、それを解決するための「土台」はどのようなものか、というように検討を進めたほうが良いのではないかと思います。

委員： 資料3について、「土台」とあるのは「土づくり」であり、土がきちんとできれば、立派な木が生えて果実がなりますので、重要なのは「土づくり」だと思います。

また、資料には木が1本しか生えていませんが、高齢者の問題や、障がい者、子ども・子育てとテーマごとの木が生えていても良いのではないのでしょうか。それに従って、「土づくり」の部分で、何を取り組んでいくのかを決めていくほうが良いと思います。

さらに、先ほどのご意見にもありましたが、資料2にある今年度検討すべき重点テーマについては、原因に関するテーマと結果に関するテーマが一緒になっていると感じます。「地域づくり」は土づくりにあたりますが、「子ども・子育て・若者」といったテーマは果実にあたると思いますので、その点をしっかりと整理したほうがわかりやすいと思います。

最後に、お願いになりますが、全体のタイムスケジュールをつくっていただき、我々は、いつまでに何を整理・検討すべきかを示していただければと思います。

委員： 現在、私は様々な福祉サービス利用していますが、ヘルパーの不足等により、お願いしたいときに必要な支援を頼めないことがあります。今後、高齢者が増えていく中で、どのように支援を受けていけるのか、非常に不安に思っています。2025年という将来だけではなく、今現在の問題として考えていく必要があると思います。

また、市民が当事者の意識をもって関わっていく仕組みも考えていかないと、かたちだけで終わってしまうと思いますので、そうならないようにする必要があります。

委員： 課題を解決するシステムを考える前に、まだ課題の共有ができていないと思います。各分野で課題があり、それぞれが悩んでいて、それらがつながれば良くなるだろうという大体の共通認識はありますが、本当に困っているのは何なのかがよく分かっていないと思います。何が、そのつながりを阻んでいるのかについても分かっておらず、その壁をどのように崩していくのかということが、我々の共通課題ではないかと思っています。

また、「地域包括ケアシステムの構築」については、国が様々なイメージを示していますが、それと同じである必要はないと思います。「藤沢型」ということは、「藤沢でゼロからつくる」ということでもあるので、市の考え方についても検証し、話し合うことが重要だと思います。

委員： 障がい者総合支援協議会に委員として出席した際に、障がい者の支援に

において医療が必要な場合でも、どのように医療に結び付ければいいのか分からず、困ることがあるという話があり、そのことが頭に残っています。そのような際に専門職を支援する機関として、今年度、在宅医療支援センターができましたが、そのような情報や先ほどの課題等を、このような会議を含め、伝える場・ルートがあることは大事だと思いますので、そのようなかたちでの連携もしていきたいと思います。

委員： キーワードは、「いかに他人事を自分事にするか」であり、障がい者や高齢者の問題を、自分たちの問題だという意識することが重要だと思います。また、分野ごとに行政計画があり、それぞれに「めざす姿」がありますが、それらを踏まえた「藤沢型地域包括ケアシステムのめざすべき姿」が見えていないと思います。

そういった意味では、私は、「藤沢型地域包括ケアシステム」がプラットフォームになればいいと思います。縦割りには弊害もあれば利点もありますので、今の体制を全て崩すということではなく、駅での乗り継ぎのように、これに乗ればどこに行くかわかるという、プラットフォームのような位置づけになれば良いと思います。

委員： 自分事という点に共感しました。私は、学生の頃をデンマークで過ごしたのですが、そこでは、誰もが高齢者や障がい者ということを感じることなく、一緒に生活していました。普段から、高齢者や障がい者を含め、誰もが一緒に地域にいる環境があれば、「自分事」としてとらえ、互いにつながり、連携しながら暮らせる地域づくりが可能ではないかと思います。

また、私は、今日の会議で、これだけ方々にお会いでき、ワクワクしています。このような場は、私が声掛けをしても、私の知っている範囲の方しか集まらないと思いますが、市が音頭をとることで、様々な分野の素晴らしい方々とお会いできるきっかけができ、本当にワクワクしています。

委員： 私が最も感じるのは、人をもっと大事にしてほしいということです。本日の会議のやり方を含め、役所というところは、流れをつけて、枠をつけることが好きだと感じています。地域にいれば、様々な世代の人がいて交流できるにもかかわらず、これまでの施策等では、枠をはめ、分けることが多いのではないかと思います。

人のことを一番に考えて色々な施策を実施していけば、大体のことは解決していくのではないかと思います。

## 【7 代表及び副代表の選出】

代表の選出について、藤沢型地域包括ケアシステム推進会議設置要綱第5条第1項に基づき、倉持委員から提案があり、満場一致で、小林委員が選出されました。

また、副代表については、藤沢型地域包括ケアシステム推進会議設置要綱第6条第1項に基づき、代表の指名により、佐川委員が選出されました。

## 【8 その他】

事務局から次の2点について、連絡しました。

藤沢型地域包括ケアシステムに関する市民向けシンポジウムの開催予定

第1回 = 2015年（平成27年）11月22日（日）

第2回 = 2016年（平成28年）1月30日（土）

推進会議の今後の日程（年度内に2回程度の開催を予定、日程は別途連絡）

また、各団体等における取組で、推進会議に関係するものがあれば、事務局までご連絡いただくよう、お願いしました。

以 上